

指導日時・教室 平成20年9月11日(木)4限 教室名:福祉看護実習室
 対象生徒・集団 総合学科 2年(次)生14名(内訳 23H4人 24H5人 25H5人)
 科目名 基礎介護(単位数3)
 使用教科書 基礎介護(実教出版) P.176

1 題材名 高齢者の生活と介護

2 題材の目標

- ・利用者の心身の状態に応じた介護の展開過程に関心を持ち、介護技術に主体的・意欲的に取り組む。【関心・意欲・態度】
- ・高齢になることにより生ずる生活上の変化について理解する。【知識・理解】
- ・利用者の日常生活の援助として基本的な介護技術を身につけ、介護技術を総合的に活用することの必要性を理解する。【技能・表現】【知識・理解】
- ・高齢者や障害者が自立と生きがいをもって生活ができるように援助する方法について考えを深める。【思考・判断】

3 指導に当たって

(1) 生徒の状況

平成18年度入学生より介護福祉士国家試験受験資格対応のカリキュラムがスタートした。この講座の生徒たちはその第二期生となる。14名中9名が現在のところ介護福祉士受験資格取得希望であり、10月下旬の第1回、12月上旬の第2回校外実習(現場実習)に向けて、専門的な知識の理解と基本的介護技術の確実な習得を目指し学習している。また、5名の生徒が福祉以外の分野での就職や進学を考えているようだが、どちらの生徒たちも課題に対しては「将来役に立つ」という思いから、楽しく真剣に授業に参加・活動している様子が随所で見られる。

生徒たちは、提示された問題に対して「自ら考え、気づき」「感じる」ことはできる。しかし、それを自分の意見として他の人に理解してもらえるように伝えることが苦手な生徒もいる。

(2) 指導方針・方法

基礎介護は2・3年次継続履修の科目である。そのため、2年次の範囲は知識の分野においても、さらに技術の分野においても基礎的な部分が多い。運動・移動は環境整備の次に介護技術の基本とされている。この後、さらに難易度が上がり、学習する分野が広がる意味でも、一つ一つの動作が確実に自分の技術として身につくように個々人の能力に応じて一人ひとり丁寧に指導していきたい。その際には、技術到達度が生徒自身にもわかるような自己評価表を用いながら、自分の評価さらに友達の評価もできるよう試みたい。また、なぜこのようなことが技術の手順として必要なのか、介護技術動作の裏付けも考えさせながら指導したい。さらに、2～3人の少人数グループ、全体発表など人数や発表形式を変えながら、自分の意見を相手に伝えるだけでなく、理解してもらうためにはどんな工夫をすればよいかを生徒に考えさせながら実践していきたい。

(3) 教材選定の理由

この題材では次の2点について学習活動を進めていく。第一に体位の名称とその姿勢について理解し、ボディメカニクスを活用した安全で安楽かつ介護者、利用者ともに負担のかからない体位変換を身につけさせる。第二に運動・移動がもたらす心身の役割を理解し、利用者の残存機能活用と運動・移動における基本的な方法(歩行、車椅子)について理解し、利用者の状態に応じた適切な介護ができる能力を身につけさせていく。

4 題材の指導計画(総時数 30時間)

第一次	環境整備(ベッドメイキング)とコミュニケーション(12時間)	
第二次	運動、移動の援助(9時間)	
	1時	身体を動かすことの意味
	2時	ボディメカニクスって何だろう・・・本時
	3時	体位の名称とその姿勢(ベッド上の体位変換を踏まえて)
	4時	歩行介助(杖、その他)
	5時	ベッドから車椅子への移動と移乗(全介助)
	6時	車椅子からベッド 〃(全介助)
	7時	ベッドから車椅子への移動と移乗(半介助)
	8時	車椅子からベッド 〃(半介助)
	9時	車椅子による移動介助
第二次	食事の援助(9時間)	

5 本時の指導と評価の計画（第二次第2時）

(1) 本時のねらい

運動・移動の介護においてボディメカニクス活用の必要性を理解する。【知識・理解】

(2) 準備・資料等 「基礎介護」(実教出版) P176、プリント、ペットボトル、体育服(実習着)

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5分	・前時の学習を振り返る。	・身体を動かすことの意味をまとめたプリントを見ながら確認する。	・生徒に考える時間を保障し、数名指名する。	
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】運動・移動の介護習得のための5原則とは何だろう。</p> </div>			
	<p>・本時の学習内容を知る。</p> <p>・5原則(運動・移動の技法修得の際に留意する原則)</p>	<p>・プリントや黒板を見ながら本時の学習内容を確認する。</p> <p>・黒板を見ながらプリントで確認していく。</p> <p>①<u>身体</u>の状態を考慮する。</p> <p>②要介護者に対し、<u>介護動作の説明</u>をする。</p> <p>③正常運動を<u>阻害</u>しない。</p> <p>④適切な<u>介護方法</u>と<u>介護量</u>を提供する。</p> <p>⑤<u>ボディメカニクス</u>を活用する。</p>	<p>・黒板に学習課題カードを提示する。</p> <p>・プリントの5原則①から④については、重要なキーワードを大きな文字・太字にしておく。そして、簡単な説明を加えながら、原則内容すべてが書かれているカードを黒板に提示していく。</p>	
30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問題】要介護者(利用者)にとっても、介護者にとっても、安全で安楽な介護技術：ボディメカニクスとは何だろうか。</p> </div>			
	<p>・ボディメカニクスとは何か</p> <p>・ボディメカニクスの原則</p>	<p>・ボディメカニクスの言葉の意味(人間工学：力学的相互作用)を知る。</p> <p>・体験活動を通してボディメカニクスの原則を知ろう。</p> <p>・2人一組のグループに分かれる。</p>	<p>・ボディメカニクスの8つの原則について、ゲーム的な要素を用いて実際に体験させる。</p> <p>・グループによって発表能力に差が出ないように生徒の配置に配慮する。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(①～⑧の体験を通して)利用者の方には運動・移動していただく際に行う介護はどんなことが大切なのか、体験してみよう。体験からそれぞれ気づいたこと、感じたことを書こう。また、なぜそう感じたのか理由も考えてみよう。</p> </div>			
	<p>・体験に入る前に</p>	<p>・体験の目的について知る。</p> <p>・プリントの記入の仕方について理解する。(気づいたこと、感じたことは体験中にメモを取る。またその理由も考え、書き取る。)</p> <p>・発表会について知る。</p>	<p>・ただ体験するのではなく、運動・移動の介護を行う際の「利用者の安全・安楽」さらに介護者の安全を確保するにはどんなことが大切かという視点で行うよう、予め伝えておく。</p> <p>・この体験後にグループごとに発表することを伝える。</p> <p>・順に体験するように指示する。</p>	

<p>原則</p> <p>①相手に<u>近づく</u></p> <p>②<u>支持基底面</u>を広くする</p> <p>③動作の方向に<u>足先</u>を向ける</p> <p>④<u>重心</u>の位置を<u>低く</u>する</p> <p>⑤<u>大きな筋部</u>を使う</p> <p>⑥相手の<u>四肢</u>を体に<u>近づける</u> (身体を小さくまとめる)</p> <p>⑦<u>てこの原理</u>を使う</p>	<p>①<u>持ち上げてみよう</u>。</p> <table border="1" data-bbox="459 219 831 432"> <tr> <td data-bbox="459 219 667 432">A. 1 m 棒の先に 1.50 ペットボトル (水入り) をつけたものの。</td> <td data-bbox="667 219 831 432">B. 1.50 ペットボトル (水入り) と棒。</td> </tr> </table> <p>(Aが重い、Bは軽い)</p> <p>・なぜそう感じたのか理由を考え、プリントに記入する。</p> <p>②～⑤友だちを押してみよう。 ・1人がA～Dの体勢になり、もう1人が正面から相手の肩の辺りを押す。</p> <table border="1" data-bbox="459 763 831 925"> <tr> <td data-bbox="459 763 667 925">A. 両足をそろえたまま (腰の位置高い)</td> <td data-bbox="667 763 831 925">B. 肩幅左右に足を広げる (腰の位置高い)</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="459 947 831 1081"> <tr> <td data-bbox="459 947 667 1081">C. 足を前後に開く (腰の位置高い)</td> <td data-bbox="667 947 831 1081">D. 足を前後に開く (腰の位置低い)</td> </tr> </table> <p>(押す: Dが安定し、体がぶれない)</p> <p>・なぜそう感じたのか理由を考え、プリントに記入する。</p> <p>⑥座った人の体を回まわしてみよう。</p> <table border="1" data-bbox="459 1339 831 1529"> <tr> <td data-bbox="459 1339 667 1529">A. 床に座り、両足を前に出しそろえたまま回す。</td> <td data-bbox="667 1339 831 1529">B. 床に座り、両足を体育座りのように組んでそろえ、回す。</td> </tr> </table> <p>(Bが回りやすい)</p> <p>・なぜそう感じたのか理由を考え、プリントに記入する。</p> <p>⑦ベッドで寝ている人を起こしてみよう。(寝ている人はなるべく身体力を抜くように)</p> <table border="1" data-bbox="459 1809 831 2045"> <tr> <td data-bbox="459 1809 667 2045">A. 寝ている人の肩を持ってそのまま起こす。</td> <td data-bbox="667 1809 831 2045">B. 寝ている人の背中に手を回し、首と肩を支える。いったん自分の方に傾け倒しながら起こす。</td> </tr> </table>	A. 1 m 棒の先に 1.50 ペットボトル (水入り) をつけたものの。	B. 1.50 ペットボトル (水入り) と棒。	A. 両足をそろえたまま (腰の位置高い)	B. 肩幅左右に足を広げる (腰の位置高い)	C. 足を前後に開く (腰の位置高い)	D. 足を前後に開く (腰の位置低い)	A. 床に座り、両足を前に出しそろえたまま回す。	B. 床に座り、両足を体育座りのように組んでそろえ、回す。	A. 寝ている人の肩を持ってそのまま起こす。	B. 寝ている人の背中に手を回し、首と肩を支える。いったん自分の方に傾け倒しながら起こす。	<p>・生徒に考える時間を保障し、プリントに理由を記述させる。</p> <p>・違いがわからず困っている生徒に対しては、「棒」の長さをもっと長くしたらどうなるか等質問を付け加え、考えるよう促す。</p> <p>・自分たちの周りに危険物がないか確認しながら行うよう伝える。</p> <p>・ただの押し競饅頭的な押し合いにならないように、どこを押すなど一つ一つのポイントを丁寧に伝える。</p> <p>・回りにくい場合は、少し身体を傾けて、お尻を支点にして、こまのように回してみるように指示する。</p> <p>・教師側で試演し説明するが、「てこの原理」というキーワードを生徒から引き出すように質問を工夫する。</p> <p>・無理に起こそうとすると、お互いに怪我が発生する可能性もあるので、ゆっくり、慌てずに原理を使って起こすように伝える。</p>	
A. 1 m 棒の先に 1.50 ペットボトル (水入り) をつけたものの。	B. 1.50 ペットボトル (水入り) と棒。												
A. 両足をそろえたまま (腰の位置高い)	B. 肩幅左右に足を広げる (腰の位置高い)												
C. 足を前後に開く (腰の位置高い)	D. 足を前後に開く (腰の位置低い)												
A. 床に座り、両足を前に出しそろえたまま回す。	B. 床に座り、両足を体育座りのように組んでそろえ、回す。												
A. 寝ている人の肩を持ってそのまま起こす。	B. 寝ている人の背中に手を回し、首と肩を支える。いったん自分の方に傾け倒しながら起こす。												

	<p>⑧<u>水平</u>に移動する</p>	<p>(Bが起こしやすい) ・なぜそう感じたのか理由を考え、プリントに記入する。</p> <p>⑧ベッドに寝ている方を移動してみよう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>A. ベッドに寝ている人の上から抱え込み、移動させる。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>B. ベッドに寝ている人を横から引くように移動させる。</p> </div> </div> <p>(Bが安全・安楽に運べる) ・なぜそう感じたのか理由を考え、プリントに記入する。</p>	<p>・教師側が試演し説明する。ただし、「水平」というキーワードは生徒からの発言としてでてくるように質問を工夫する。</p>	
10分	<p>利用者の方に運動・移動していただく際に行う介護はどんなことが大切なのか考えてみよう。</p>		<p>・体験の前に提示した体験目的をもう1度確認する。 ・発表態度や声の大きさについて随時指導するが、発表内容等よいグループは賞賛する。</p> <p>・ボディメカニクスについて、空欄部分が生徒からの発言としてでてくるよう質問を工夫する。</p> <p>・もう1度、黒板提示した項目やプリントに目を向けさせながら、振り返りを行う。</p>	<p>・ボディメカニクスを活用する必要性を理解する。 【知識・理解】 (演習状況、プリント記入状況)</p>
	<p>・まとめ 体験発表</p> <p>・ボディメカニクスの原則の活用とは</p> <p>・次時の予告</p>	<p>・①～⑧の体験について発表する。 発表する点 ・どんなことに気づいたのか、感じたのか。 ・なぜそう感じたのか、考えられる理由</p> <p>・ボディメカニクスの原則について空欄を埋める。</p> <p>・ボディメカニクスを活用した方が、利用者にとっても、介護者にとっても有効かつ安全・安楽であることを知る。</p> <p>・次時の学習内容について知る。</p>		